

THE MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION

いい人・いい音

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団

第18号

2013年1月7日発行

発行：明治安田クオリティオブライフ文化財団
編集：専務理事 佐藤 正 俊
住所：〒160-0023
東京都新宿区西新宿1-9-1
TEL:03-3349-6194
FAX:03-3345-6388
<http://www.meijiyasuda-qol-bunka.or.jp>

アジア友好



武蔵野音楽大学特任教授・東京藝術大学名誉教授

金 昌 国

(当財団音楽分野選考委員)

5年前にアジア各地の友人たちと「アジアフルート連盟」を立ち上げました。日本ではおよそ45年ほど前から、韓国ではおよそ25年ほど前から、中国では今まさに大きなフルートブームが起こっています。それにも関らず日本と欧米、中国と欧米、韓国と欧米、台湾と欧米の交流はあっても、アジア同士のそれはほとんど無いに等しい状況でした。その事に忸怩たる思いをした私たちは、アジアフルートティスト間の相互交流・研修・若手人材の育成を目的に集まりました。年に一回皆が集まる大会(コンGRES)をこれまでに東

京・ソウル・上海・東京で行い、今回は台北で12月に開催する予定で、いろんなタイプの人たちがいて、お国柄も様々で大変楽しく交流しています。フルートを愛し、音楽を愛する気持ちは全く共通の物で、皆この交流に、大きな意義と喜びを感じています。

去る8月末には、このコンGRESとは別に「第1回北京国際フルートフェスティヴァル」に、日本からのゲストとして招待して頂き、モーツアルト・フルート協奏曲についての講演とコンクール本選の審査をして来ました。みんな大変歓迎してくれ、老若男女100人近くの中国フルートティストたちと、ツーショット・スリーショットの写真撮ったりしました。どこの国の人でもフルートティストは通じ合えるものだなー・・・と感じました。

そのうちに、日中間はきな臭くなってきました。日本商店など大き

な被害を受け大変お気の毒な事になりました。8月の経験を見せて頂いたものとしては、とても信じられない状況です。危害を加えた人たちの中には、私とツーショットを撮った人たちなど音楽を愛する人は一人もいないと信じています。領土問題は、たとえ小さな島の事でも大変大切なことなのでしようが、意地を張ってこれ以上、悪い状況にして欲しくはありません。人類が理解し合、親しみ合い、平和を達成するには、大変地味でも、多くの人がそれぞれ分野で、文化交流を続ける必要があると思っています。フルートという限られた分野ですが、私は折角始めたアジア交流を、可能な限り続けなければならぬと思うところですよ。

我々の世界の神様、ベートーヴェンの音楽は人類愛の塊ですから！

「海外音楽研修生費用助成」の

二〇一三年度申込受付を開始

当財団は、一九九一年六月の設立以来、「クラシック音楽分野における若手音楽家の人材育成」を目的として海外音楽研修や海外音楽コンクール参加のための費用の助成を行ってきました。過去22年間の助成対象者数は、合計154名です。

二〇一三年度は、「海外音楽研修生費用」の助成希望者を公募いたしますので、助成を希望される方は主に音楽大学や音楽指導者宛に送付した「申込要領」をご覧いただき、4月12日（金）までにお申し込み下さい。

助成の趣旨等

1. 助成の趣旨

わが国のクラシック音楽文化の向上のため、国際的音楽家を目指して研鑽中の若手音楽家に対し、海外、特に欧米への留学に必要な費用の助成を行います。

2. 助成対象

海外の教育機関等に留学し、技術を練磨するとともに、その実体験を通じてさらに研鑽を深めることを志す方。（対象とする専門分野は、声楽・器楽）

- ・ 原則として音楽大学卒業（予定）者および大学院在籍者・修了（予定）者
- ・ 声楽は一九八〇年九月一日以降、器楽は一九八五年九月一日以降に生まれたる方。
- ・ 海外留学についての計画

- ・ と目標が明確である方
- ・ 二〇一三年から二〇一四年十二月末までに入学が可能な方
- ・ 研修目標の達成に必要な語学力を有する方
- ※既に海外に留学中の方も対象になります

3. 助成対象人員

- ・ 4名程度
- 4. 助成金額
- ・ 年額200万円
- ・ 助成期間は原則2年

申込手続書類等

1. 申込書

- ・ 所定用紙による。

2. 推薦書（2通）

- ・ 2名の方の推薦が必要。
- ・ 推薦書には、次の項目を必ず記入のこと。①あて先（当財団名）②被推薦者（応募者）の氏名、③推薦理由、④作成日（3ヶ月以内）、⑤推薦者本人の署名。

3. 録音資料および録音証明書

(1) 録音資料

- ・ 録音時間10分間程度の

オーディオCD（MDも可）を提出のこと。

・ 最近半年以内に録音された演奏であること。

・ 応募者本人の演奏が明確に聴き取れる録音状態であること。（同一楽器による二重奏等、個々の演奏者を識別しにくい録音は審査の対象外）

・ オーディオCD（またはMD）は録音した曲目の楽曲構造に依りて、ディスクに分割点をマーク（クリック）し経過時間を記入願います。

(2) 録音証明書

・ 応募者本人の演奏であることを、伴奏者（個人または団体）、演奏会主催者、録音スタジオや録音エンジニア等の録音に立会った関係者が書面により証明のこと。

・ 証明書には、次の項目を必ず記入のこと。①演奏者氏名、②録音日時、③録音場所、④曲目、⑤証明者の住所と電話番号、⑥証明書作成日、⑦証明者本人の署名。

日程

1. 申込期限
 - ・ 4月12日（金）必着（申込書類は簡易書留便による郵送を原則とします）

2. 選考日程

- ・ 第一次選考（書類・録音資料審査）は4月下旬
- ・ 第二次選考（第一次選考通過者に対する実技および面接）は5月19日（日）
- 【開催地 東京・新宿】
- 3. 結果発表
 - ・ 6月上旬

選考方法

当財団の選考委員会で厳正に審査の上、助成候補者を選出し、その後、理事会の承認を経て助成対象者が決定されます。

詳細については、「申込要領」または当財団のホームページ
www.meijiyasuda-gol-bunka.or.jp を参照下さい。

海外音楽研修生レポート

「自由であることの大変さと
素晴らしさ」



(10年助成)
高橋 さやか
(留学先・パリ第七区立
エリックサティ音楽院)

憧れの街であるパリに留学して早2年、パリはある意味、私の想像していた通りの街でした。フランスと言えば、個人主義の国、全ての人は自己責任で動くため、しがらみがなく自由である、これは、あちらにいと日々感じることであり、私が留学中に最も注目して観察してきたフランス的感覚かもしれません。この自由

さは、どんな場所においても感じるができます。お昼休みになれば、しっかりとお店を閉めてしまう商店街や、レッスン中に先生が相手であつても、言いたいことがあればとことん議論しようとする生徒たち、演奏が良ければ試験であつてもブラボーと声を上げる審査員たちなどなど。私のフランス人の恩師が、フランス人は他のヨーロッパ人よりも正直にものを言う人種であると教えてくれたことがあります。始めは冷たいように感じるその裏表のないフランス人の性質に、最近では愛着が湧くようになってきました。良い時は良いとはつきり言い、媚を売るようなことのないフランス人の凛とした美しさは、音楽をやっていく上でも私たちが日本人が必要とするところかもしれません。そんなフ

ランス人のお客様を前にフランスものを演奏する時は緊張しますが、演奏に込めた想いが伝わった時は、お世辞を含まない好評と率直な意見を示してくれます。

私が留学中に体験した最も嬉しかった出来事は、長い間勉強してきている作曲家、ガブリエル・フォーレの「イスパハンの薔薇」という曲をリサイタルで演奏し終わった際に、フランス人のマダムが「ブラボー」と声を上げて下さったことです。日本では、華やかなオペラの曲になると、その盛り上がりによってブラボーと言う声が上がることなども多く、慣習的になった分、その真意が見えない時を感じられます。しかし、歌曲というジャンルで、さらに非常に穏やかな曲調のこの曲で、他に流されない気質を持つフランス人のマダムに声をかけて頂いたのは、私にとって忘れられない体験となりました。何よりもそこに、このマダムのまっすぐな気持ちが進められているのを瞬時に感じ取ったからです。そして、長い間

フォーレ歌曲の研究を重ねてきたことやフランスで切磋琢磨して勉強してきたことなど、全てが報われたような満たされた想いになりました。

舞台という場では、しっかりと自分の音楽というものを持ちつつ、それを通してお客様と対話することが理想であるため、音楽家には強い自立心が求められます。そのような自立心を、この厳しくも温かい自由なフランスという地で育て、音楽家としてさらに成長していけるよう、今後もしっかりと進んで参りたいと思います。

「伝える大切さ」



(10年助成)
多田 真理
(留学先・チューリヒ芸術大学)

「君が何を考えているかわからない」「自分の意志はなののかい」

最初の頃、このようなことを言われ続けていた私。何を隠そう私がここに来て最初に覚えたドイツ語は「egal (何でもいい、どうでもいい)」でした。言葉も全く分からなかつたし、何よりも自分の意見が間違っていたら恥ずかしい!という気持ちが大きく、「egal」を連発して毎日を送っていたため、冒頭のような言葉が言われたのです。でも日本人とスイス人、国柄も違えば価値観や考え方も多く異なることを伝えあわなければ何も生まれないのでは

ないかと思いい、今までヘラヘラしていたのは「精神を改め、まずは自問自答し、何がしたいのか、何を思いい何を考えているのかと客観的に自分を見つめ、そしてそれを言葉にするよう少しずつ心がけていきました。しかし伝えたくてもドイツ語が追いつかない。ああ、もつとちゃんと語学を勉強しておけばよかつたと後悔しながらも四苦八苦知つている単語を口にしてみる。最初の頃は先生からしたらもはや連想ゲームだつたと思いいますが、優しくゆつくりと聞いてくださり「つまり君が言いいたいことはこういうことなんだね」と、まとめて下さりました。そんな日々を送つているうちにいつしか自分の意志が自身で明確に分かるようになり、意見を述べるのが怖くなくなり、そして言葉も慣れてくるもので完璧ではありませんが、スムーズに伝えることができるようになっていったのです。もちろんきちんと言いいすことは大切ですが、それに捉われず、心を込めて、そして伝えたいとい

強い気持ちをもつて言葉が発したら通じるものなのだと実感しました。そしてそれは演奏にも表れていたようで、ある時「君はもう学生の演奏じゃなくなつたね。しつかりと自分の意志を持つて表現できるピアニストになつたじゃないか」と言つていただき、この時初めて、自分自身をもつと知ること、そして強い意志と気持ちを持つことが演奏する際に大事だいいことを先生は言いいたかつたのか！と気がついたので。先生と2台ピアノのコンサートもさせていただいたのですが、その時もお互い言いいたいことを言いい合つていたら色んなアイデアが湧いてくるもので、本当に幸せなひとときでした。

今は「自信を持ちなさい。自信のない演奏は魅力を半減させるんだよ」と言われ続けていますが、非常に難しいです。ですが、先生が教けて下さつたこと。これだけには誇りを持つて自信があると言えます。このような素晴らしい先生と出会えたこと、恵まれた環境で勉強

させていただけれたことに、心より感謝申し上げます。

「パリとベルリンに暮らして」



酒井 有彩 (10年助成)
(留学先・ベルリン芸術大学)

ヨーロッパに住み始めて早いもので5年目に入ります。高校卒業後、すぐに渡仏し、パリで2年半勉強した後、2年前の2010年から勉強の地をドイツ、ベルリンに移しました。現在はベルリン芸術大学で勉強しています。初めてヨーロッパでの一人暮らしを始めた当初はまだ10代でした。初めは右も左も分からず、生活面での手続きや契約など、苦労も多々ありましたが、ふと上を見上げると大好きなパリの街並み！街には音楽が溢れ、市役所や教会の

ベルリンでの生活を始めて2年半、同じヨーロッパでも言葉、街の景観、空気の香り、空間の響きなどがパリとは異なり、今ではこの国が大好きです。

留学生活は予期せぬハプニングが起きることは日常茶飯事、でもそんな時いつも沢山の友達が力を貸してくれます。一緒に苦楽を共にした留学仲間が人生のかけがえない友です。「ああ〜通じない!!」と笑い合つたフランス人とも今では大の仲よし、やはり語学力が留学生活を左右するとつくづく思いいます。

この2年間は日本でのリサイクルに加え、ヨーロッパで演奏させていただけれる機会も多く、様々なコンディションや環境の中、本番に臨むこととなり、精神的にもとても強くなつたように感じます。この冬は日本でも2つのリサイクルと、ベルリンでも初めてのソロリサイクルをさせていたただけることになりました。

西洋で生まれたクラシック音楽は、時代を超え、国境を越え、民族を超え、今なお

輝きをもって現代に生きています。作曲家たちが生きた街、彼らがどのような苦悩や喜びを感じ作品に託したのか、このヨーロッパで勉強できる時間を大切に、様々な上質な音楽に触れ、しっかりと自分なりに音楽と向き合い、沢山のことを吸収したいと思っています。

「留学そしてドイツ語」



(10年助成)

小林 美樹

(留学先・)

ウィーンコンセルヴァトリウム

私立音楽大学)

留学先をウィーンに、と決めたときにまず最初の心配はドイツ語でした。高校で2年間学んだとはいえ実用にはほど遠いレベルでしたので私は日本にいる間から、公文のドイツ語コース

を受講し始めました。基本の基本から学ぶため、ものすごい量のプリントをこなす、まだ雪の積もる寒いウィーンに1月から移り住みました。その夜、雪の中で見たオペラ座の美しかったことを今でも思い出します。ウィーンではその後、公文は相変わらず続けながらも生活のリズムを崩さないように毎日午前3時間の現地ドイツ語クラスに通い、時々ヴァイオリンの先生のプライベートレッスンを受けたが6月の入試に臨みました。現地の語学クラスはすべてドイツ語なので、この公文のドイツ語のプリントのように日本語で様々な解説が書かれているものは並行しての学習に大変役立ちましたのでお奨めです。無事、6月の入試に合格し、9月の入学前には取得していなければいけない語学試験にはこんな方法で合格することができました。

しかしウィーンの学校では英語ができればコミュニケーションには困らずオペラのクラスの指揮者のかたも英語だったり、それ以上のドイツ語の上達よりも今は英語の重要性をより感じています。さらにいえば私のヴァイオリンの先生は何となくドイツ語ができませんのです。それでもウィーンで暮らしていられないのを見ると、本当に外国人が多い街なんだというのを改めて感じます。そんなわけで私もこんな程度のドイツ語でここウィーンで暮らしているわけなのですが、やはり言葉はできるに越したことがないので是非これから留学を考えておられる方は頑張ってください。

語学学校、といえれば様々な人々と出会いました。あの日本人の女性が日本人の若い学生さんに、パーティーがあるからこないかと誘い、実は宗教の勧誘だったという怖い話もありました。私も誘われたのですが行きませんでした。どこの国でも学生を狙う新興宗教団体があるので、気を付けた方がいいかもしれません。語学学校には音楽以外にも企業にお勤めや数学、物理を学んでいる方など様々です。当時同じクラスでチェロを学ぶ韓国の友人は今ではチェロの道をあきらめ、何と自国にもどりキャビンアテンダントになつています。今思えば音楽学習者のみに囲まれて過ごしていた私が、唯一ヴァラエティに富む業種の方たちと机を並べて学んだ場があつたんだなと感慨深い気持ちになります。

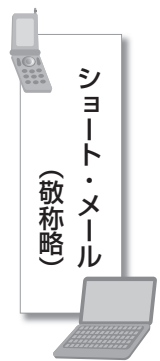
もうじきまたウィーンは私が初めて暮らし始めた雪の季節になります。今では雪の中でオペラ座を見ても日常の景色として通り過ぎるだけの自分がいます。それでも19歳のあの夜、雪の中でオペラ座を見て感激した自分の気持ちは年をとっても忘れないだろうと感じています。この2年間私の留学生活を支えて下さった皆様に心より感謝申し上げます。有り難うございました。

日本音楽コンクール

明治安田賞受賞者(作曲部門)

日本音楽コンクールの作曲部門は、現在活躍中の作曲家の方々がデビューの足掛かりとしてきた重要な部門ですが、当財団は若手作曲家の励みとなるよう財団発足の91年度から同部門の最優秀者に対し「明治安田賞」(賞金50万円)を寄託し、これまでに次の方々を受賞されています。

91年度 (第60回)	山河 智
92年度 (第61回)	伊佐治 直
93年度 (第62回)	藤満 健
94年度 (第63回)	原田 敬子
95年度 (第64回)	伊佐治 直
96年度 (第65回)	望月 京
97年度 (第66回)	若林 千春
98年度 (第67回)	なかにし あかね
99年度 (第68回)	大場 陽子
00年度 (第69回)	三浦 則子
01年度 (第70回)	小野 貴史
02年度 (第71回)	名倉 明子
03年度 (第72回)	朴 銀荷
04年度 (第73回)	中村 寛
05年度 (第74回)	宮沢 一人
06年度 (第75回)	横島 浩
07年度 (第76回)	篠田 昌伸
08年度 (第77回)	山根明季子
09年度 (第78回)	稲森安太己
10年度 (第79回)	江原 修
11年度 (第80回)	中辻小百合
12年度 (第81回)	魚路 悠太
	平川 恭子
	加恵 加恵



助成対象者の皆さんから寄せられたお便りを助成年度、専攻部門の順に掲載しました。

1991年度助成

妻屋 秀和

(声楽・ライブツィヒ在)

財団の助成を受けイタリ
ア・ミラノに留学してから
早20年が経ちました。今の
キャリアを築けたのも一重
に財団の助成のお蔭と感謝
しております。

一昨年8月からフリーラ
ンスとなり、ドイツと日本
を中心に活動を続けており
ます。これからもより一層
の飛躍を目指して頑張っ
ていきたいと思っております。

松井 久子

(ハープ)

在籍しております日本
フィルハーモニー交響楽団
での活動に加え、昨年度よ
り東京藝術大学及び附属高
等学校にて非常勤講師を努
めさせていただくことにな
りました。これから未来あ
る若い人たちに音楽を演奏
する素晴らしさを伝えてい
けるよう、試行錯誤しなが

らの日々ではありますが、
私自身も共に楽しく勉強さ
せていただいております。
こうした音楽に携わること
が出来るとともに感謝しな
がら、今年も一人でも多く
の人と時間を分かち合っ
ていきたいと思っております。

鈴木 優子

(打楽器・メーアブッシュ在)

ここ数年、演劇の舞台の
上で演奏する仕事を多く
行っています。今年は1月
にケルン市立劇場でギリ
シャ悲劇「トロイアの女
たち」に出演し、10月はハン
ブルク市立劇場にて新作に携
わります。並行して、いくつ
かの現代音楽のプロジェクト
に参加する予定です。

1992年度助成

田中 晶子

(ヴァイオリン・ミュンヘン在)

昨年は、ローマ法王のサ
マーレジデンスで演奏する
という光栄な機会をいただ
きました。ミュンヘンの作
曲家、ウイルフリード・ヒ
ラー氏の作品、アウグス
ティヌス(アンサンブルオ
ペラ)でソロバイオリンを
担当しました。

今年6月には、東京でマ
キシム・ベンゲロフと共演
予定です。

早川 りさこ

(ハープ)

NHK交響楽団に所属し
て今年で12年目。素晴らし
い指揮者やソリスト、そし
て頼もしい仲間とともに音
楽を紡ぐ幸せを日々感じて
います。大変光栄なことに
今年5月には、定期公演で
タン・ドゥン(譚盾)氏の
ハープ協奏曲を世界初演さ
せていただきます。夏には
N響でザルツブルグ音楽祭
に参加、その後はヨーロッ
パ各地を廻る予定です。

1993年度助成

横田 みぎわ

(声楽)

台湾に来て3年目になり
ます。外国にいるからこそ
日本の音楽を大切にしたい
と考えさせられます。台湾
にいる子どもたちが日ごろ
耳にしている音楽はテンポ
が速く、日本語の美しさが
感じられる曲とは随分違う
ようです。子どもたちに
とっては耳慣れない「荒城
の月」や「浜辺の歌」とい
った日本歌曲の素晴らしさを
伝えたいと願っています。

九頭見 香里奈

(ヴァイオリン)

アウグスブルク在

2009年に息子が生ま
れましたが、1kg未満で呼
吸も出来ない状態で生まれ

たので体が弱かったため、
オーケストラの仕事を2年
半休ませてもらい、今年に
入って復帰しました。ドイ
ツの育児休暇手当は、上限
はありますが、給料の7割
の額を1年間支給され、そ
の後も2年間は育児休暇を
とることが出来ます。大抵
の人は1年で仕事に復帰し
ますが、特別小さい息子を
授かった私にとっては、3
年まで休めるというこのシ
ステムが、本当にありがた
かったです。

ビオラ奏者の主人がアウ
グスブルク勤務なので、家
族3人でアウグスブルクに
住み、主人よりは仕事の少
ない私がシュトゥットガル
トに通っています。オーケ
ストラの仕事以外にも、
時々室内楽や小さなリサイ
タルもできるほど、息子も
大きく丈夫になってくれま
した。息子を助けて下さっ
たお医者さんや看護婦さん
たちがよくコンサートに來
て下さっています。そうい
うこともあって、音楽家で
良かったと思うことが多く
なりました。

1994年度助成

樋口 あゆ子

(ピアノ)

私の今年の音楽活動は、
通常のソロ活動と毎週土曜
日18時45分〜19時の「FM

横浜ピアノワイナリー響き
のクラシック」のパーソナ
リティに加え、音楽監督と
して初春から毎月コンサ
ート「松涛クラシックス」をタ
カギクラヴィア松涛サロン
にて始動させていただきま
す。第1回はソプラノ幸田
浩子氏をお招きしジョイン
ト、一流の音楽家の生演奏
を至近距離で低価格をコン
セプトに、地域や一般の方
々々にお届けして参ります。
皆様も宜しければ是非お立
ち寄り下さいましたら幸い
です。

また、2004年より音
楽活動をしておりますベト
ナムが日本との外交樹立40
周年を今年に迎えますので、
ベトナム政府後援「第1回
日越ピアノフェスティバル」
を秋に開催し、ベトナムよ
りピアノリストさんをお招き
し、私は音楽監督として就
任いたします。今後とも、皆
様には引き続き御交誼を賜
りましたら幸いです。どう
ぞ本年も宜しくお願いいた
します。

マリア・アヤ・アシユリー

(ヴァイオリン・ボン在)

指の腱鞘炎もすっかり治
り、感謝しています。人生に
は山あり、谷ありだと痛感
しました。が、自分を信じて
耐えれば、必ず良い時が

やってくるものです。昨年夏には、広島の大崎上島で演奏し、鳥民の皆様喜んでいただけたことを嬉しく思いました。

今年5月には、チェコの演奏者二人と、ピアノトリオの演奏会をボンで開きます。トリオでこれから本格的に活動していければ、と思っています。ケルン放送響の団員としての活動も大事にしたいです。良い指揮者の下で弾くのは本当に楽しいものです。

松岡 みやび (ハープ)

昨年9月にPHPP研究所よりはじめての著書を出版しました。『聴くだけで元気がでる本』ハープの音色がおこす奇跡の物語。私のCD付きで自分の音楽人生を振り返ったエッセイです。音楽療法研究者の和合治久先生と共に実験したデータの解説もあります。ハープの音色が心身に及ぼす癒し効果を科学的に証明したものです。松岡みやびハープ教室では「音楽療法コース」を新設し、福祉施設での音楽演奏を課外授業として提供することになりました。

今年には音楽之友社より、私のオリジナル流派「ミヤビ・メソッド」の教本&DVDが出版されます。株式会社ミヤビ・メソッドの代

表取締役として経営も学ぶ日々を送っておりますので、皆様どうぞご指導宜しくお願い申し上げます。

神田 寛明 (フルート)

昨年9月にNHK交響楽団中国公演に参加、北京・天津・上海の3都市で演奏しました。中国国内における対日デモや暴動に関する報道が連日メディアのトップを占めていた時期の訪中に、N響メンバーも不安を隠せないようでした。しかし現地では聴衆の熱狂的な拍手に迎えられ、心配は杞憂に終わりました。プライベートでも友人との再会や上海音楽院でのレッスンなど、音楽・観光・美食と、これまでと変わらない交流を楽しみました。マスメディアやインターネットを通じて日々大量に流れる情報の、取捨選択に注意を払うべきでしょう。

(NHK交響楽団首席フルート奏者。アジア・フルート連盟常任理事)

1995年度助成

大森 潤子 (ヴァイオリン)

札幌交響楽団で元気に活動させていただいています。札幌ではオーケストラの他、管弦楽九重奏団「カメラ

タ札幌」、また昨年よりキラホールのレストランホール「No.1」でも活動しています。また、毎年初冬に北海学園大チャペルで行っているバツハの無伴奏演奏会は5回を数えました。相変わらず、全国各地でのアウトリーチ活動も継続しています。

演奏を通して様々な経験をさせていただけえることに感謝し、自分にできることに力を尽くしたいと、日々思っています。

榎本 大進 (ヴァイオリン・ベルリン在)

ベルリン・フィルの第1コンサートマスターとして3シーズン目を過ごしています。

ソリストとオーケストラ、それぞれの仕事を持つ独自の楽しさを実感しながらの充実した日々です。

今年も、オーケストラでの演奏はもちろん、1月(ベートーヴェン・ヴァイオリン・ソナタ公演ツアー)や6月(バシユメット&モスクワ・ソロイストとのツアー)に日本での演奏機会も予定されているので楽しみにしています。

志茂 美都世 (ヴァイオリン・イギリス在)

昨年はいままでよりも多

く世界中で異常気象が起こりました。人類が宇宙に住む時代になれば地球は必要のない存在になるのでしょうか、温暖化は予想以上に深刻な問題に発展し危機感を感じさせます。日本では穏やかな四季感や天気が失われ、一日に晴れと雨とが混ざったイギリスの気象を時々思い起こさせることがあるのが不思議です。

石橋 幸子 (ヴァイオリン・チューリッヒ在)

昨年、トーンハレ管弦楽団の仕事、そして弦楽三重奏(トリオ・オレアーデ)のコンサートと練習に明け暮れる毎日でしたが、とても充実した日々を過ごしていました。そして現在在籍しているトーンハレのオーケストラの仕事も10年目に入り、月日が経つのは本当に早いと実感しています。

そんな中、昨春に「弦楽三重奏のコンクールを受けてみないか?」というお話をいただき、7月にミュンヘン国際弦楽三重奏コンクールに参加しました。コンクールへの参加は10年振り。そして今回の優勝候補は、前回のミュンヘン国際ピオラ部門で最高位の中国人男性が率いる弦楽トリオ... 凄いな奏者がいる中、私たちのトーンハレのメンバーで結成した「トリオ・オレアーデ」は自分たちの音楽を奏でることだけに集中し、1次、2次、そして本選へと進み光栄にも第1位をいただくことが出来ました。

1996年度助成

磯 絵里子 (ヴァイオリン)

昨年は、デビュー10周年を記念して始まった磯絵里子ヴァイオリンリサイタル

性、今年夏にはサウター氏とアレンスキー氏の室内楽作品をCD録音する予定です。そして、スイス国内の音楽祭や、ウィーンでもコンサートに出演します。もし、機会がありましたら、是非「トリオ・オレアーデ」のHPをご覧ください。

石橋幸子HP: www.yukikoishibashi.com
トリオ・オレアーデHP: www.trio-oreadec.com

シリーズのVol.3で練木繁夫さんと共演し素晴らしい経験をしました。10月には同じヤマハホールでアンサンブルΦ(ファイ)としてのデビューコンサートがあり、今後も様々な形でのアンサンブルを模索していきます。また明治安田生命のチャリティコンサートや神奈川フィルハーモニーの支援コンサート、大切な活動の一つである子供のためのコンサート、被災地を訪れての訪問コンサートなど、多くの演奏会に出演しました。また、FMヨコハマのクラシック番組のパーソナリティも3年目を迎えました。様々な形での音楽活動を通して大きな幸せを感じています。

私の演奏会や活動は、下記HPまたはブログで新着スケジュールを公開しております。
<http://www.34-net.com/eriko>
<http://yaplog.jp/iso-diary/>

1998年度助成

新垣 裕子

(ヴァイオリン・スイス在) チューリッヒ歌劇場管弦楽団へ入団して10年になりました。素晴らしい指揮者と世界で活躍する多くの歌手の音楽性に直に触れ共演することで、常に刺激とそごして感動に溢れる日々を過ごしています。この10年間に弾いたオペラを数えてみたところ、110曲でした。

今シーズンは同楽団のロンドン、モスクワ公演の他、以前から参加活動しているアンサンブルJaschillaの一員として、春と夏のザルツブルグ音楽祭へ初めて参加します。今からとても楽しみにしています。

1999年度助成

田邊 織恵

昨年10月末に、念願叶ってザ・カレッジ・オペラハウスの20世紀オペラシリーズ、ヴォルフフェラーリ作曲「イル・カンピエツロ」

(関西初演) ガスパリーナ役で出演し、ヴェネツィア語(フランスその造語)、難しくもありましたが、大変美しい音楽、そして作品の面白さにどっぷり浸かりました！舞台やオペラは私のエネルギーの源、自分が一番輝くことができる場所だと改めて実感した日々でした。

大谷 玲子

(ヴァイオリン) 昨年9月に、ヴィエニャフスキ国際コンクールの優勝者による第1回ワークショップ&リサイタルに、コンクールを主催するヴィエニャフスキ協会からプロジェクターとして招聘され、ポーランド・ポズナニに1週間余り行ってきました。コンクール入賞から16年経ってポズナニに戻り、ポーランド国内から選ばれた10人の若い大変優れた受講生たちにレッスンしたり、超満員のホールでポーランド人ピアニストとリサイタルを行い、私にとって素晴らしい経験になりました。

大谷玲子HP:
<http://reikoOtani.com>

2000年度助成

諸田 広美

昨年も沢山の出会いや歌

う場に恵まれ、沢山の方々にお世話になり、感謝の気持ちで一杯の年となりました。歌は体が楽器で、その時の体調や状況によって、演奏が大変な時もあります。私も2年前に喉を痛め、その間調子を戻しながら演奏活動を行ってきた、健康であることの有難さを痛感しました。ですが、この苦い経験はこれからの演奏活動を続けていくための学びの時間だったと今は思えるようになりました。

次に昨年の主な演奏としては、6月には日本での第九演奏発祥の地・徳島県鳴門市で第九ソリストを務めました。第九は何回も歌っています。発祥の地で600人の合唱団との演奏は大変感動的でした。また、その縁で今年の正月にはアメリカ・ロスアンゼルスに第九ソリストとして招待され、第九の他日本歌曲も披露してきます。9月には初めてロシア・オペラに出演しました。私の地元・群馬県にある群馬交響楽団の首席チェロ奏者がロシアの方で、同じくロシア人の奥様が私のピアニストを務めていた

だくという普段から周りにロシア人がいる環境にあります。これまでも数曲ロシア歌曲を歌ってきましたが、オペラのオフアアを受けたのを機にロシア語の勉強を

始めました。以前は記号しか見えなかったアルファベットも読めるようになり、更にロシアのレパートリーを拡げられるのが楽しみです。オペラでは来日したロシア人歌手達と共演でき、多くのことを学びました。11月には毎年出演しているオペラサロン・トナカイで「トロヴァトーレ」を手がけました。予算の都合上、私が音楽面と演技面も監督することができ、有益な経験でした。また、ソブラノの中村洋美さんとヒロミ同士で「ひろみりず」というユニットをスタートさせました。12月には二期会創立60周年記念のサロンコンサートを担当させてもらいました。

今年2月に「ヘンゼルとグレーテル」で初のヘンゼル役や、10月は全国的な企画「リレー・フォー・ライフ」での歌唱担当、11月にはリサイタルなど予定しています。今後も益々精進して参ります。

神谷 未穂

(ヴァイオリン) 在籍する仙台フィルの存続が危ぶまれるほど、東北に大被害をもたらした震災から5日振りに弾いたラヴェル・ツイガース。この曲の持つ、民族の力をこれま

で以上に感じ、「必ず復興するぞ!」という気持ちになりました。

今までソロヴァイオリンのCDを出さないか、というお話をいただく度に、私にはまだまだ...と思っていました。が、どうしても今の自分のツイガーンを残したいと、昨年11月21日に発売されたフランスに關係のある曲を集めたCD「ブーケ・ド・フランス」に収録しました(共演は桐朋の高校、大学を通しての同級生でフランス在住のピアニスト・望月優芽子さん)。私には大切な1枚となりました。皆様にも聴いていただけたら幸いです。

今年3月末には、仙台フィルのコンマスに就任してから初めての海外公演・ロシアツアー(サンクトペテルブルグ、モスクワ)に行っています。ロシアに行くことも初めてです!!大作曲家、大演奏家が育った国はどんなところなのか、とワクワクすると共に、昨年音楽界の大ニュースになった、税関での楽器没収に遭わないことを、心から祈ります。9月の仙台フィル定期公演では、母校の桐朋の学長でもいらした三善晃氏のヴァイオリン協奏曲を山田和樹氏の指揮で演奏させていただいたり、昨年に続き全日本学生音楽コンクール

の審査員等をさせていただく予定です。厳しい不況が続く、留学を断念する音楽家が増えていくと聞きます。財団の音楽家へのサポートに心から感謝し、この素晴らしい助成制度が長く続いていくことを、心から願っています。

(HP) <http://www.yaplog.jp/nihol17/>

シユレイファアー 三子

(ハーブ・ダラス在)

2012年も瞬間に過ぎ、年末が押し迫っています。例年と変わらず、演奏活動と後進の指導に追われた1年となりました。生徒が育っていく姿を見ることが至福の時であると感じるとともに、自分自身の演奏と勉強のための時間とどう兼ね合いをとっていいのか、考えさせられた年となりました。

そんな中今年1月には、アメリカにてソロCDがリリースされる予定となっています。また、ジュリアード時代の友人から、ジュリアードのクリスマスチャングルーブの卒業生が、日本へボランティア活動のために、もうすでに二度ほど被災地へ行って来た、そして再度訪れたいと思つていてという話を聞き、日本を心配してくれその心を本当に嬉しく思いました。皆様の

2013年が、実り多い1年となりますよう、お祈り申し上げます。

藤井 香織

(フルート・ニューヨーク在)

ニューヨークに来て早4年半、永住権も無事に取れ、ここアメリカが第二の故郷になりつつある今日この頃。コンサートをしたり、沢山の個性あふれる生徒さんをお教えしたりしながら楽しく生活しています。

今年2月にはピアニストのフィリップ・モルさんとシカゴでリサイタル、3月には1ヶ月間帰国し、神戸室内合奏団との共演(7・10日)、リサイタル(25日)、家族との室内楽(19・30日)と盛り沢山!今からとても楽しみです!

2001年度助成

三上 亮

(ヴァイオリン)

今年は1月に、札幌と東京でのリサイタルを開催します。また同時に、2枚目となるソロCDをリリースすることになりました。最近、地元のカフェで時々、同世代の様々な職業の人たちが集まる中で、思いのまま演奏したりしています。コンサートホールとは一味違う皆の反応、楽しんでいきます。

大石 将紀 (サクソフォン)

昨年最も思い出に残る出来事の一つは、台北で講習会の講師を勤め、リサイタルを行ったことです。何度か行ったことのある台湾ですが、今回親切で勉強熱心な学生と数日間一緒に過ごして、彼らの素朴な親しみやすさに惹かれました。僕にとつての音楽の魅力はやはりこれです。音楽を通しての異文化の人との交流。いただいた留学の機会も大きな財産です。

2004年度助成

富平 安希子 (声楽)

私事ですが1月にまた一人家族が増えることになりました。演奏活動への本格的な復帰は子育てが一段落してからでしょう。

まだまだ先のことになりそうですが、私の人生において今は「母親」として、育児を通して子どもから沢山のことを学び、気付かされる時期なのだと思います。よく言われますが、育児は、育自。全くその通りだと。後の演奏活動にこの経験がどういった表現で反映できるのか、今から楽しみでもあります。

杉村 香奈 (ヴァイオリン・ベルリン在)

弦楽四重奏 (Morpheus Quartet) とピアノ四重奏 (Flex Ensemble) のアンサンブル活動にてドイツ国内、オランダ、オーストリア、フィンランド、フランスにて演奏活動中。デンマーク、アンサンブルと頻繁に共演。5月、アジアツアーに参加予定。

2005年度助成

白木 あい (声楽)

結婚、そして妊娠と、昨年は私にとって大きな変化の年となりました。正直、お腹に赤ちゃんを抱えての演奏は厳しいものがありますが、日に日に大きくなるお腹にはこの上ない幸せと喜び、そして沢山の希望が詰まっているように思います。

3月に出産した後は徐々に復帰してまいります。今年にはライマンの現代オペラに挑戦させていただくことになっておりますので、子育てとの両立が最大の課題となりそうです。先輩方のアドバイスをしつかりと胸に刻みながら、歌うママ1年生としてしっかりと頑張りたいと思います。

横坂 源 (チェロ)

6年の留学生生活を経て、この秋、帰国しました。今後は日本を拠点に演奏活動をしながら、ヨーロッパとの接点も持ち続けていきたいと思っています。今年、1月末のエルガーの協奏曲（大阪交響楽団）を初め、NHK交響楽団とのチャリティコンサート（2月）、また室内楽（3月）など様々な演奏の機会をいただいていることを嬉しく思います。

2006年度助成

鈴木 真貴子 (ピアノ)

演奏活動に並行して、昨年度より東京藝術大学附属高校の非常勤講師として働かせていただいています。高校生のフレッシュな感性に刺激を受けながら、改めて音楽の素晴らしさを再認識しています。

今年、私は私の専門であるブーランクの没後50年となります。1月30日の王子ホールでのリサイタルをはじめ、様々な関連コンサートを企画しています。

2007年度助成

上江 隼人 (声楽・ミラノ在)

お蔭様でミラノを拠点に

活動しています。昨年は2月東京二期会「ナブッコ」タイトルロール、4月イタリア・パルマ王立劇場ヴェルディ「ステイツツフェーリオ」スタンカー役、7月東京二期会「パリアッチ」トニオ役を歌わせていただきました。

中村 恵里 (声楽・ミュンヘン在)

昨年は9月に東京・紀尾井ホール主催のリサイタルで日本での出演が叶いました。東京出身でないにもかかわらず、沢山のお客様にお越しいただき、記念に残る公演となりました。とはいえ、演奏面では色々と反省が多く、これからも益々精進しなければならぬと心を新たにしているところです。

リサイタル後は、エストニア国立響とコンサート、スペインでのデビュー、そしてバイエルン州立劇場での出演となります。今年、再び英国ロイヤルオペラハウスでのゲスト出演も控えており、非常に忙しい日々が続きます。周りの方々に支えていただきながら、少しずつ前進できれど願っています。

2008年度助成

クリスティン・木実・ウィットマー (声楽・オランダ在)

ここ1年ほど、ピンチヒッターという形で色々な得難い体験や出逢いがありました。初見でのA. Berlioz「プレミアCD録音や、本番前日依頼のシュツツ」「マドリガル」全曲演奏など、精神的にも鍛えられる状況ばかりでした。

しかし、代役の機会なしには考えられなかった一流音楽家たちとの出逢いに、ピンチヒッターは神様からの贈り物なのだと感謝しています。

相田 麻純 (声楽)

イタリアから完全帰国し、はや1年が経ちました。日本に帰ってからもオペラの舞台に乗る機会を多くいただき、イタリア語の意味をきちんと身体で感じ、音を紡いでいくことの大切さを日々感じていきます。特に、プッチーニ作曲「蝶々夫人」の舞台ではスズキ役を演じ、彼女の言葉からは優しさや苦悩を感じ取ることが出来ました。これからは言葉の持つ意味と対峙しながら、音楽生活を送っていきたくと思っています。

塚越 慎子 (マリンバ)

昨年は、打楽器奏者として初めて「出光音楽賞」を受賞いたしました。長い伝統と権威あるこの賞を受賞できまことは、大変光栄なことと、これまでお世話になった全ての皆様に、改めて心から感謝をしております。

2009年度助成

重島 清香 (声楽・ヴァイマル在)

今シーズンより、ヴァイマル歌劇場専属歌手として、念願のオペラ歌手という職に就くことになりました。現在、「ファルスタッフ」「椿姫」「魔笛」「ヘンゼルとグレーテル」に出演しています。複数の演目を同時に準備していくのは大変ですが、恵まれた仕事に就けたことに喜びを感じています。

松本 伸章 (ピアノ)

日本に帰国してから早いもので1年半が経ち、当初は混乱していたのか、理解不能な言語で見ていた変な夢も、日本語で見えるように

なりました。実感はありませんが環境に慣れてきた証だと思っています。

昨年3月に地元宮崎でリサイタルを開催し、幸いにも満員のお客様にお越しいただきました。また、昨年4月からは、より広くピアノの魅力を知ってもらおうと、初心者の方向けにピアノを使ったワークショップを定期的に開催しているのですが、参加者の方の突拍子もない意見や斬新過ぎるピアノの音に衝撃を受けながらも、毎回新しい発見をし感動を貰っています。

今年からは地元での演奏活動も増える予定です。漠然とピアノを弾き続けるのではなく、自分自身を深く掘り下げ、己を知る作業も大切にしながら、自分がピアノを通して世の中を何を伝えていけるのかをアンテナを張って探し続けたいと思っています。

金子 平 (クラリネット)

7年間という長い留学生活を終え、昨年7月から読売日本交響楽団での契約団員としての生活がスタートしました。始まったばかりで試行錯誤の毎日ですが、オーケストラで演奏できる喜びを日々感じています。ドイツの音大で学んだこと、歌劇場の仕事で経験したこ

とが本当に大切に貴重な時間であったと改めて感謝しています。

2011年度助成

門間 信樹

(声楽・ニューヨーク在)

人生で初めての海外での生活、一筋縄では行かないところは多々ありますが、それでも学ぶ部分も沢山あります。ましてアメリカは自己主張の国。「僕なんてとでも」ではなく、みんなが「いや、僕は」という意気込みで勉強しています。何事も挑戦、一か八か、体当たりで多くのことを吸収したいと思っています。

坂本 彩

(ピアノ・ベルリン在)

2年目を迎えたベルリンでの生活は、心から信頼する先生・仲間にも恵まれ、以前より充実度を増しています。

昨夏には、地元神戸で独りして以来初となるソロリサイタルをさせていただき、また、秋には数日間、南ドイツの街・ハイデルベルクを訪れ、そこで見た朝もやに包まれた輝く街並・街中に響き渡る教会の鐘・哲学者の道から臨んだ全景は、どれも息を呑むほどの美しさで、そこから何か大きな活力を与えられた

ようでした。素晴らしい環境の下で深く音楽と向き合える毎日が、今何よりも尊いものとなっています。

永井 基慎

(ピアノ・パリ在)

パリでの生活を始めて約1年になります。日々の授業とレッスンの他、週数回行くパリ管やラジオ・フランス等をはじめ、一流と言われている芸術家たちの生きた音楽に触れることが出来る喜びが、日々の活力源になっていての心を心から感じております。今年度の学びや演奏の機会も充実させたものになるよう、精力的に取り組んでまいります。

正戸 里佳

(ヴァイオリン・パリ在)

本格的にパリで学び始めて、早4年の歳月が過ぎようとしています。最初の1年は、修士入学に必要な語学力を身に付けることで精一杯でした。フランス語が身に付くにつれて、音楽のフレイジングも長くなつて行きました。留学で得られることとは、その文化圏で創られた音楽を全身で吸収できる、この一言に尽きると思う今日この頃です。

黒金 寛行

(バス・トロント在)

ベルリンでの留学生活も残り数か月となりました。すべてが新鮮だった風景、文化なども少しずつ自分の中になじみつつあります。毎回レベルの高いコンサート、オペラに触れられることはもちろんですが、教会、壁の歴史、由緒ある建造物など、古くからあるものを守ろうというヨーロッパの気質を感じることが多く、その中に身を置き、吸収できる喜びを日々感じています。

2012年度助成

竹下 裕美

(声楽)

今年の春からの渡欧に備えて今は準備をしている最中で、日本にいながら語学を学ぶには、強い意思と集中力がなければ出来ないと思う毎日です。NHKの語学講座も、発音だけ聞き取ろうと頑張りますが、気が付けば薄目でテロップを読んでいる自分がいて、その度に頭にげんこつをすることに決めていたため最近頭上がりとなり始めたような気がします。そんな私ですが、長年の夢だった留学のために歩ませていただけのことがありがたく、この上ない幸せなことだと感謝の

毎日です。これも全て、このような機会を与えていただいたお蔭と心からお礼申し上げます。留学に向けて精進して頑張ります！

増田 桃香

(ピアノ・サンクトペテルブルク在)

昨年9月より、サンクトペテルブルグ音楽院にて勉強しています。現在、寮の二人部屋に住んでおり、土日に関係なく練習室の予約のために毎朝早起きして、レッスンを語学の授業の合間を縫って1日7、8時間練習するという生活を送っています。レッスンは週2日あるため常に新しい曲を譜読みしていて、たくさんレパートリーを抱えています。

最初はこの生活に慣れるまで大変でしたが、自分の勉強だけに集中できるこの環境のありがたさを日々感じていきます。ピアノだけでなく、ロシア語も早く上達させるべく、地道に勉強する毎日です。私の先生は毎回マスタークラス形式でレッスンをを行うので、他の学生のレッスンを聴けるのは大変興味深いことです。また、日本ではまず上演されないロシアオペラや、ロシア正教会の教会で行われる典札音楽の演奏会に頻繁に通えることが、何

よりの心の栄養となっています。

松本 紘佳

(ヴァイオリン・ウィーン在)

昨年9月にベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲を日本フィルと演奏した後、ウィーンでの留学生活がスタートしました。目に入る街並みも、耳に入ってくる街の音も何もかも日本と違う環境で生活し勉強する中で、私の中で様々な変化が起きてヴァイオリンの音も変化してきています。

200年の伝統を持つムジークフェラインで演奏会を聴き、ベートーヴェンやモーツァルトも歩いた道を歩いてレッスンに通う毎日がとても幸せで充実しています。

上村 文乃

(チェロ)

昨年は、夏にスイスのジュネーヴで行われた「Lac Lemán Music Masterclasses」に参加してきました。このマスタークラスはレベルがとても高く、早く海外に行かなければと焦燥感に駆られました。広く世界を見ることが、音楽も人間も成長できるような気がします。また、昨年は大きな演奏会もたくさんあったので、しつかりと勉強しながら留学に備えていきたいです。

「海外音楽研修」「海外音楽コンクール」助成対象者一覧

(敬称略)

助成対象者		助成対象者		助成対象者	
氏名	専攻	氏名	専攻	氏名	専攻
1991年度					
久住庄一郎	声楽	泉良平	声楽	富平安希	声楽
妻屋秀和	〃	増大田弥生子	ピアノ	中橋有起	ピアノ
日紫喜恵美	ピアノ	高橋博奈	オルガン	脇岡洋平	ヴァイオリン
江澤友聖	〃	川村崎貴子	ヴァイオリン	梁	〃
大千葉純子	ヴァイオリン	山崎中川晶子	〃	2005年度	
植村菜穂	〃	田中川りさ	〃	白木あ	声楽
小松井玉穂	〃	早大萩康子	ハーブ	金原聡	〃
斎藤久明	ギター	伊藤寛隆	ギター	佐野村伸	ヴァイオリン
鈴木大介	〃	大伊藤寛	クラリネット	川坂源	チェロ
末次孝規	トロンボーン	1998年度		遠藤真	〃
鈴木優子	打楽器	黒木香保	声楽	2006年度	
1992年度					
佐野成宏	声楽	増嶋起久	〃	江田雅子	声楽
揚原祥彦	ピアノ	田藤のり子	〃	石原妙	〃
志茂征彦	〃	伊藤野子	ピアノ	白根亜紀	〃
田中晶子	ヴァイオリン	新垣裕泰	ヴァイオリン	佐藤卓史	ピアノ
伊藤亮太郎	〃	扇谷泰雅	〃	鈴木真貴	〃
宮本恵人	〃	島田真千子	〃	朝吹園子	ヴィオラ
飛澤浩	ヴァイオリン	1999年度		2007年度	
富永佐恵	チェロ	田邊織恵	声楽	中村恵理	声楽
安楽真理	ハーブ	林野正翔	ピアノ	上江隼人	〃
早川りさ	〃	中野田清玲	〃	伊藤わか	ピアノ
梅津千恵子	打楽器	大谷玲明日香	ヴァイオリン	平野朝水	チェロ
1993年度					
横田みぎわ	声楽	瀬田崎明子	〃	渡邊玲	フルート
岡田将樹	ピアノ	瀬清水晶英	〃	2008年度	
有森直樹	〃	2000年度		クリステン木実ウットマー	声楽
九頭見香里奈	ヴァイオリン	宮部小牧	声楽	相田麻純	〃
山本千づき	〃	上野真穂	ヴァイオリン	木嶋真優	ヴァイオリン
斎藤千尋	チェロ	神谷未穂	〃	塚越慎子	打楽器
萩原貴子	フルート	日下紗矢	〃	2009年度	
岩井英二	テューバ	工藤すみれ	チェロ	盛田麻央	声楽
1994年度					
樋口あゆ子	ピアノ	シュレイファー弓子	ヴァイオリン	重島清章	〃
M.A.アシュリー	ヴァイオリン	中村創	〃	松本伸章	ピアノ
小林幸輝	〃	藤井香	ハーブ	三浦文彰	ヴァイオリン
清水醒輝	〃	山本美樹	ギター	上野星矢	フルート
磯絵里子	〃	川村文雄	フルート	金子	クラリネット
中島慎加	〃	椎名雄一郎	〃	2010年度	
横山奈加	〃	日下紗矢	ヴァイオリン	高橋さやか	声楽
赤松奨	チェロ	大石将紀	サクソフォン	重島清真	〃
松岡みやび	ハーブ	2001年度		多田真彩	ピアノ
神田寛明	フルート	山本美樹	声楽	酒井有美	ヴァイオリン
1995年度					
大井浩明	ピアノ	川村文雄	ピアノ	小林美樹	〃
大森潤子	ヴァイオリン	原由香	声楽	2011年度	
志茂美都世	〃	長崎結真	〃	小門大信	声楽
玉井菜幸	〃	高田野沙	ピアノ	坂本基	ピアノ
石橋幸修	〃	高橋野和	〃	永井基	〃
1996年度					
小山麻穂	声楽	高杉橋村	ヴァイオリン	黒金寛行	ヴァイオリン
磯絵里子	ヴァイオリン	高渡香奈子	〃	2012年度	
上里英子	〃	2003年度		竹下裕美	声楽
清水有紀	〃	市原愛衣	声楽	増田桃香	ピアノ
大谷玲子	〃	本田智恵	ピアノ	松本紘佳	ヴァイオリン
安藤裕美	ヴァイオリン	山本希	〃	上村文乃	チェロ
篠川美生	チェロ	武藤順子	ヴァイオリン	(注)	
中山隆崇	トランペット	2002年度		・*は海外音楽コンクール助成対象者	
2004年度					
(同助成は2003年度以降廃止)					
・(a)と(b)とは同名の別人					
・○は2年連続申込し助成決定(2009年度及び2010年度)					